

平成 26 年度第 1 回市長と教育委員の意見交換会

平成 26 年 7 月 29 日（火）午後 2 時～ 市民応接室

1 開会

2 市長挨拶

学校統合の問題が一番にあると思うが、先日の高校生殺人の件など、危険やトラブルが蔓延している。教育に頼らざるを得ない場面もあると思うが、行政全体で支える体制が必要。意見交換により、様々な問題を再認識したいと思うので、課題を是非おしえてもらいたい。

3 教育委員長挨拶

地方教育行政の組織及び運営に関する法律が改正になり、現在の教育委員会制度も大きく変わる。これまでも市長と教育委員が意見交換を行ってきたが、連携が強化されることになる。本日は、25 年度の教育行政の点検及び評価について、それから学校再編の課題について、協議したい。再編については、課題を整理中である。これからの取組として、小 P 連や地域代表との話し合いを予定している。議会の常任委員会のメンバーとも懇談会を持つことも考えている。

4 意見交換

(1) 平成 25 年度教育行政の点検及び評価について

教育長 （平成 25 年度教育行政の点検及び評価について説明）

市長 誰が評価しているのか。一般市民の評価なしでは、手前味噌にはならないか。

教育長 事務局の自己評価のあと、審議会での評価を行う。審議会のメンバーは大学等の学識経験者、PTA、学校、地域代表等で構成させており、市民の評価も入る。

市長 ABC 評価ではなく、市民目線での施策の点検として次につながる評価の在り方を。

教育長 審議会（学校教育）では施策の提案もあった。ABC 評価と最終評価には次年度の方向も記述している。市民目線という点では、地域学校委員にお願いするなどしてみたい。

市長 不登校の課題もあるが、いじめについてその後はどうか。

教育長 現在は沈静化している。いじめのとりえ方も受けた側がいじめられたと感じたら件数にカウントしている。いじめやトラブルはあるが、どう解決するかが大切。

市長 人権教育が一番わかりやすい。それこそ命に関わる問題。しっかり取り組んで欲しい。

教育長 今の子どもたちに必要なことは本物体験である。L i n eを通して友人になったつもりでいる。顔を見合わせてということがなくなっている。

市 長 2次元で物を見る傾向があるのではないか。そうした点では、部活は意義がある。

委 員 虫を触れない子が多い。体験が必要。なんでも魔法のように出来ると思っている。出来ないということを体験させたい。

委員長 命の大切さ、分かっていると思っただけ、人を傷つけること、これはだめだと教えてやらないといけない。そういったことがおざなりになっている。小さいときから指導が必要。

市 長 昔は学ぶ場所が家と学校だった。今は情報による影響が大きい。現実と空想との違いをしっかりと理解させることが必要。

(2) 倉吉市立小中学校の適正配置等について

教育長 適正配置が必要だということは、ある程度浸透したのではないかと思うが、全体にまで行っていない。地域の意見がまとまっていないし、それを認識していない。単独での存続を望んでおられる地域があるが、それをどう切り込んでいくか。また、推進室的なところも必要だと感じている。

市 長 成徳・明倫、動くところが反対する。今日の日本海新聞に国が学校統合の規模を拡大するという記事があったが、文部科学省と財務省とでは考え方が違うようだが、それはそれとして使えるものは使いたい。記事には邑南町の例があったが、どういう工夫をして、さらにこれからの減少を見据えながら将来をどういうふうされるのか、調べてみてほしい。

教育長 学校統合について、秋くらいに新しい指針が出るという話を文科省の方で聞いている。

市 長 スクールバスの問題ではなく、統合が子どもにとってどうなのか、教育効果を考える必要がある。

委員長 文科省では12～18学級を適正規模としている。

市 長 適正規模の数字、それでないといけないのかという議論に耐えられるかどうか、理論値ではいけない。そこを説明できるだけのものがないと。場所が問題なのは大きい。明倫・成徳だと野島病院あたりなら理解が得られるだろうが、場所がない。そこをどうクリアするか。

教育長 答申では、学校施設は今あるものを使いながらと述べている。

市 長 跡地は二次的な問題。子どもにとってどうなのか。どこを持って理解が得られたと判断するのか。

教育長 学校の統合を考えることを成徳と明倫、関金と山守など、P T A、自治公等で議論でき始めた。あとは単独存続要望のところはどう入っていくか。

上小鴨では3、4年生で合同体育をしている。

市長　　そういう事実を地域に見てもらうのも大切。地区の運動会と一緒にやるなど
試行錯誤。運動面では多い方がいいのは皆さん承知しておられる。それ以外では
少ない方がいいのではということになる。

委員長　　ぶつかり合う、もみあう、ということですから面白い面があるが、これをなかなか
説明するのは難しい。

市長　　やはり切磋琢磨は必要である。

委員　　量があって質が上がる。心技体、ある程度の量がないと偏った形になるのでは
ないか。

委員　　子どもの数は多い方がいいと言われる保護者も多い。地域にとっての小学校
をどうクリアするか。

委員長　　地区の中心がなくなると言われるが、地区公民館を拠点にすればいい。

市長　　なくなることに対する気持ちは分かる。公民館活動が、学校を拠点として動い
ている面もある。教員削減を目的にとらえられるとだめ。逆にスポーツの面が支
障であるなら、そこをカバーすればという意見も出てくるのでは。

地域のコミュニティを保ちながら子どもの教育を考えることが必要。今の案
をベースにほかのやり方がないか、勉強してみたい。

教育長　　単独を希望している地域では、例えば地域に分校として残して、低学年は地域
に、高学年は(統合先の)本校にという考え方もある。多面的に考えていきたい。

市長　　何が問題なのか、それに対する対策を返さないといけない。

委員長　　成徳・明倫は統合せざるを得ないことは理解されている。あとは場所の問題で
ある。その他の地区においても、課題を明確にして取り組んでいきたい。

5 閉会